

企業名

アサヒグループジャパン株式会社



活動場所

広島県庄原市・三次市

開始時期

1941年

所有形態

自社有林（所有面積 2,165ha）

参考：管理面積 2,467ha

作業主体


アサヒの森環境保全事務所

主な活動内容

- ① 1941年より80年以上にわたり社員の手で社有林を管理。
- ② 2001年日本で3番目にFSC® 認証を取得。責任ある森林管理を実践。2019年広島県の「意欲と能力のある林業経営者」に登録。
- ③ 2008年より森林の自然資本としての価値定量化に着手。森の水源涵養機能などを活用し、本業の事業活動においても貢献。
- ④ 全15山で動植物の調査を行い、植物668種、鳥類60種を確認。継続的なモニタリングを実施し、生物多様性保全に向けて取り組む。
- ⑤ 地元大学と森林啓発を目的とした共創ゼミを開催。

SDGsのうち 主に関連するゴール





「アサヒの森」は80年以上に渡り、
社員の手で森を守り続けています。

アサヒの森のはじまり

- ✓ 1941年大日本麦酒(アサヒビールの前身の会社)が、ビール瓶の王冠の裏地に使用していた輸入のコルク不足に備え、アベマキの樹皮を代用品として確保するため山林を購入したことから始まりました。

総面積は2,165ヘクタール(東京ドーム461個分に相当)

※管理面積は2,467ha

広島県庄原市と三次市に点在する15の山



アベマキの樹皮



1941年に「アサヒの森」を取得して以来、社員の手で森を守り続けています。きれいな水や空気、自然の恵みを次世代に引き継いでいくことは、自然の恵みを用いて事業活動を行う私たちアサヒグループの責任だと考え、アサヒの森環境保全事務所はこれからも森を守り続けていきます。

アサヒの森環境保全事務所 所長 松岡 洋一郎

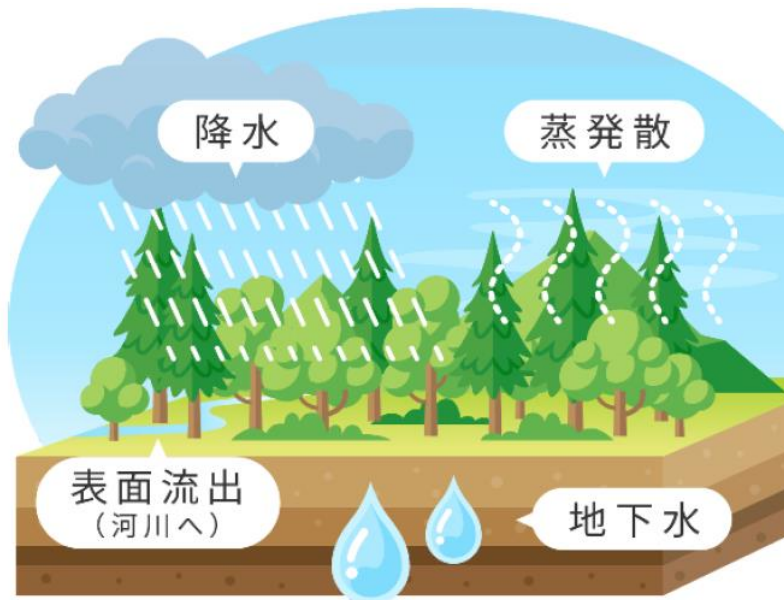


アサヒグループジャパン(株)
アサヒの森環境保全事務所
所長 松岡 洋一郎

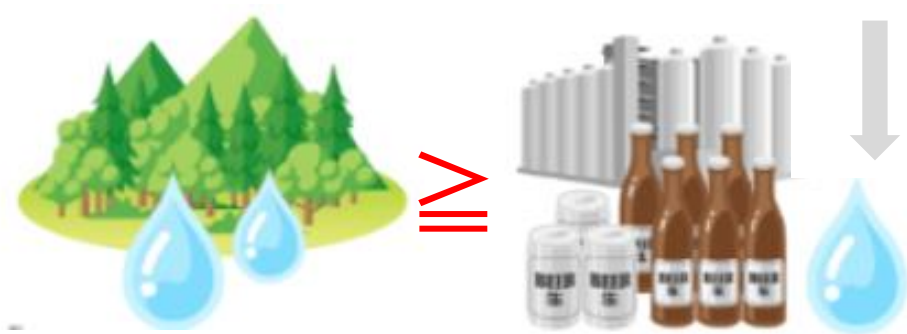
水涵養による事業への貢献

- ✓ アサヒグループでは、酒類や飲料の製造に多くの水を使用することから、ビール工場での水使用量の削減に取り組んでいます。
- ✓ 「アサヒの森」では、持続可能な森林経営を行い、アサヒビールの工場で使用する水と同量の水を「アサヒの森」で涵養(森が水を育み蓄える能力)しています。

※森の水涵養量が、アサヒビールの工場で使用する水相当量となる事を目指し、2020年、管理面積を拡大(2,467ha)



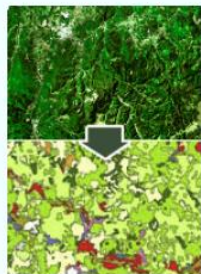
水涵養量 **1,101** 万 m^3



※2021年の国内ビール8工場の水使用量は約963万 m^3

生物多様性レポート

- ✓ 生物多様性レポートにおいて、アサヒの森は生物多様性が非常に豊かな状態と評価されています。
- ✓ この結果を受けて、社内アクションプランを策定し、生物多様性に関する活動を継続的に進めています。



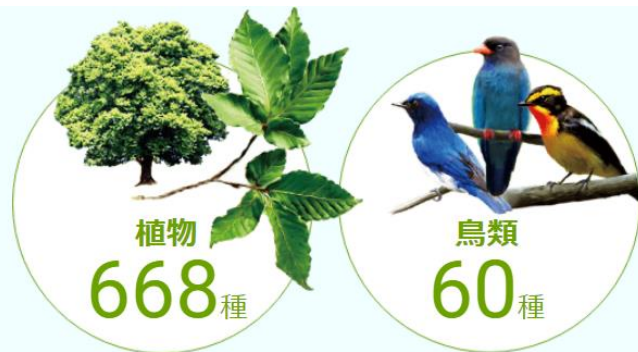
文献資料調査



動物調査



植物調査



観察された植物例



ミツマタ



ヤマホトトギス



タマゴタケ



ヤマアジサイ



ツルリンドウ



ヤマガラ



カケス



カスミサンショウウオ



ツキノワグマ



ノウサギ

観察された生きものの例

生物多様性レポート 有識者の意見
「間伐など人工林における施業が
適切に行われてきた結果、
多様な鳥類が生息しているのだろう」



山岸 哲先生
大阪市立大学名誉教授、
兵庫県立コウノトリの郷公
園名誉園長、山階鳥類研
究所元所長、新潟大学朱
鷺・自然再生学研究所
ター元センター長

広島市立大学との共創

- ✓ 2022年5-10月、森林課題に関心を持つ人を増やし、森の恵みを次世代に繋ぐ仲間を増やすことを目的とし、広島市立大学デザイン工芸学部の学生との共創ゼミを行いました。
- ✓ 学生ならではの視点で、森の機能や課題を伝えるための新しい8作品が創作され展示会を開催しました。

■アサヒグループ・広島市立大学共創ゼミ概要

アサヒの森や森林・林業の現状や課題を理解し、より多くの生活者が森林の重要性や課題に関心を持つきっかけとなるプロダクト・デザインの開発。



■展示会の様子(10月@無印良品広島アルパーク)

